

令和4年度予算編成方針

総務部長

本市においては、「したいこと、能美市^{のみし}だったら叶うかも」をキャッチコピーに掲げ、すべての施策が移住・定住の促進につながるよう事業を展開している。能美東西連絡道路や能美ふるさとミュージアムなどの拠点整備も順調に進むほか、福島グランパークへの進出表明など企業誘致も好調であり、これまでの施策が着実に実を結びつつある。

一方で、令和2年国勢調査速報値では、市誕生以来、初めて人口減少に転じた。公共施設・インフラ施設の老朽化も顕在化してきており、未だ収束に至っていない新型コロナウイルス感染症の影響により税収減も懸念されることから、限られた財源をこれまで以上に効率よく有効に活用していかなければならない。また、加賀立国1200年や国民文化祭、北陸新幹線県内全線開業など千載一遇の効果を永続して多分野にもたすための準備を加速する必要もある。

よって、令和4年度予算は、行財政改革を念頭に置いた事業の選択と集中を図るとともに、下記に定める方針により、すべての施策が移住定住の促進につながる編成を行う。

事業・施策の7本柱

- ① 子育て・住環境の充実
- ② 産業振興・企業誘致推進・人財確保対策
- ③ 交流人口の拡大
- ④ 教育力の向上
- ⑤ 安全安心のまちづくり
- ⑥ シティプロモーション
- ⑦ 行財政改革

5つの方針・目的

- ① 「備えあれば憂（患）い無し」、with 或いは after コロナを見据え、「安全安心・家計・経済の強化策」を更に推進
- ② 好調な企業誘致をはじめ、多種多様の産業集積が加速するなか、課題となる「人財確保」に向け、多岐の事業を展開
- ③ 事業・施策の7本柱の全てに「デジタル技術」を導入
- ④ 国民文化祭・加賀立国1200年、北陸新幹線県内全線開業など、「千載一遇のチャンス」への準備
- ⑤ 誰もが「安全安心快適、健康に暮らし学べる」よう、環境保全にも取り組み、市民・地域活動を支援し、施設・設備の整備、体制の強化

チャレンジ能美 2019-2023

➤ 5か年の活動の軸となり、持続可能な発展に寄与する事業の展開（4年目）

能美市誕生20年以降の方向性を見据えながら、持続可能な発展に向けて将来展望を描ける事業を「チャレンジ能美 2019-2023」に位置付ける

その他

- ・補正予算は制度改正、災害関連経費など止むを得ないもの、真に喫緊の課題解決に係るもの又は当初予算編成の中で協議したもの以外は、原則、行わない
- ・国、県の各種制度改正や新規財政需要の増加等がないか、常にその動向を注視すること
- ・具体的な予算要求の方法等は別途財政課長通知（予算編成要領）を熟読のこと

以上